

新・連・載

チャレンジする Someone NEWS

～挑戦者の履歴書

第①回

このコラムが意図すること ――筆者を例としたその履歴書

一般社団法人 洸楓座 代表理事 佐藤 建吉
一般社団法人 e f c o . j p

▼6年の歳月と展開

「新エネルギー新聞」にコラムとして寄稿させて頂き、通算で6年が過ぎた。この間、48回ずつの連載として、3つのシリーズを書いた。第1シリーズでは「エネルギーの源」がテーマで、いろは順に48話を書いた。隔週発行であり、2年を要した。

第2シリーズは、前シリーズの経験を活かし、「地域の地域による地域のためのSomething NEWS」とした。それは、今から4年前のことで、ちょうどトランプ政権が始まった年からであった。これも48回続けた。

第3シリーズは、地域を限定して「ふるさと」にフォーカスし、「ふるさとSomething NE

▼筆者の階段舞台

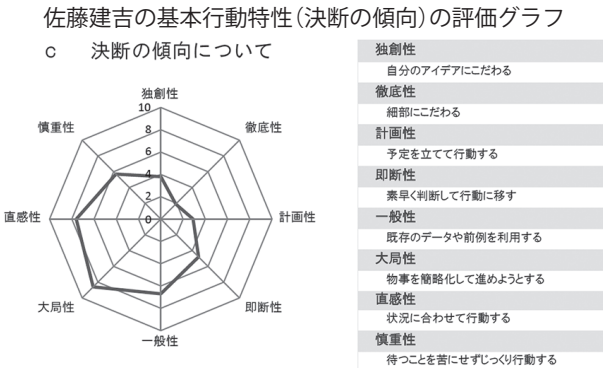
人間の大事なことが強調される。人間の大事なことが強調される。人間の大事なことが強調される。

▼出自

ある人の舞台のシナリオを筆者の場合を例として、書いてみよう。

佐藤建吉(さとうけんきち)は、1950年(昭和25年)4月14日に生まれた。現在70歳である。明治生まれの両親が戦後、現在の鶴岡の街中の引越し先にある山形県立鶴岡工業高校(機械科)に。

佐藤建吉の基本行動特性(決断の傾向)の評価グラフ



生まれの父が位いた姿をはじめてみた。初七日が過ぎたら、生家が道路の拡張工事で引越しと取り壊しがスケジュールされていた。そして3月初めに高校入試。高校には、親戚の資金配を得意に進むことができた。成績は良かった方、鶴岡の街中の引越し先にある山形県立鶴岡工業高校(機械科)に。

佐藤建吉の履歴書

しかし、最も大きな出来事は、中学3年の2月下旬に母(53歳)が胃がんで亡くなったことである。ちょうど今頃の大雪山の晩に病院の霊安室で通夜、初めて徹夜した。翌日には火葬で、火葬炉のガラス窓から覗いていたら、母の体が折れ曲がり建吉を見た。

怪我で自宅療養中の父は遺骨として帰宅した母を見て喝泣した。強剛な明治生まれの父が位いた姿をはじめてみた。初七日が過ぎたら、生家が道路の拡張工事で引越しと取り壊しがスケジュールされていた。そして3月初めに高校入試。高校には、親戚の資金配を得意に進むことができた。成績は良かった方、鶴岡の街中の引越し先にある山形県立鶴岡工業高校(機械科)に。

工学の勉強が始まった。この時はよく勉強した時期であったといえる。当時は、東大闘争、70年安保、三島事件、成田闘争、などの世相とは無縁の3年を過ごした。その後、在職のまま千葉工業大学(夜間)に編入学し3年後卒業しさらに大学院へ進学した。

◆研究者として 今度は退職し、東京都立大学大学院(修士課程・機械工学専攻)に入學した。選んだ研究テーマは、「高温腐食疲労とクリープ強度」で、損傷の進行を、時間を掛けて調べるものである。その研究で、学会発表も、論文も書き工学修士となった。仲人の勧めで結婚もした。千葉大学に戻り、研究生を経て1年半後(1980年、30歳)に機械工学科の助手となり、正規の研究生活が始まった。千葉大学では日立出身の藤井孟先生の「フレッキング疲労」について研究し、工学博士(東京都立大学、1986年)を得た。そして、機械工学科の選任講師、助教となり、その後、新設された都市環境システム学科に移籍し、国立大学法人(2004年)の移行しより准教授となった。

この間、フレッキング疲労の研究においては、新しい実験手法や新しい解析方法を次々に適用した。レーザー光線を用いるコースティックス法、パブルラフト法、圧電(ピエゾ)素子を用いたき裂発生抑制法などであり、これを境界要素法や有限要素法による接合問題解析などに適用し、大学院博士課程で工学博士(千葉大学)を4名(コースティック法、ピエゾ試験器、境界要素法、摩耗への磁場の影響)誕生させた。こうした展開は、親が居なかつた自由さが、為し得たものであろう。しかし、大学では、周囲とは協調しない勝手な振舞い者としての烙印が押された。◆社会との関わり フレッキング疲労は、厄介や面倒、あるいは悩むとかイライラするなどの意味を冠した疲労破壊現象であり、産業界でも棚上げにしたい対象である。建吉は、これを「厄介疲労」と呼んだが、棚上げしておくといずれそれが目を覚まし、気づかぬうちに破壊を導くことがある。産業界では知る人のみぞ知る課題である。したがって、フレッキング疲労の設計や保守対策の技術講習会を開催すると、巨大メーカーから一般機械の小規模メーカーまで、エンジニアの参加を得る。日本の技術の信頼性が低下している背景には、非正規雇用、コンピュータ援用設計などで設計の技術力の継承が十分でないことが挙げられる。建吉は、発電風車においてもフレッキング疲労や摩耗がおおるので、その対策が必要であると風力発電分野に興味を持ったが、日本では風力発電自体が普及しないので、その課題についても都市環境システムの中から教育研究にも着手した。また、挑戦したエン

誕生した。世界は、コロナ禍中でありwithコロナであり、postコロナ(afterコロナ)がみえない。またbeyondコロナなども呼び、コロナ感染症を早く乗り越えたい。ある人物のある舞臺での演技を、書き残してみたい。それは、ある個人の、ある生き様、舞臺の一角かも知れない。それが蓄積し、履歴書となる。

◆「出目」 ある人の舞臺のシナリオを筆者の場合を例として、書いてみよう。

そのシナリオやアーカイブは、一人のものでも、何冊にもなるだろう。舞台ごとにまとめてもいい。個々の人の、シナリオを読むことは面白い。それが、個人的であればあるほど、憶えがある。

読みこたえがある。そんな挑戦をこのコラムでは行いたい。一辺倒ではない。破天荒がなおさらいいかもしれない。このコラムでは、その舞臺とシナリオ、そして演者について書き留めたい。ある人物のある舞臺での演技を、書き残してみたい。それは、ある個人の、ある生き様、舞臺の一角かも知れない。それが蓄積し、履歴書となる。

以上の自己記述をから建吉の人生の旅路の章立てを、キーワード風に見ると以下のようになりそう。田舎の出自/自閉的な性格/集団就職/出会いと別れ/研究と工夫/イギリス滞在/粉ひき風車とブルネルの技術史/自由と孤独/新機軸への興味追求/自己解決と努力/風車と近未来社会/学会と部外交友/大学と社会/海外と日本比較/メディアとアートとデザイン/過現未と夢

以上は、一部の舞臺について手記的に述べたものである。この人生の基本行動特性(意識、考え方、感じ方)を、グラフで可視化できる評価ソフト「ヒューマン・フィッター」による評価

上記の自己記述をから建吉の人生の旅路の章立てを、キーワード風に見ると以下のようになりそう。田舎の出自/自閉的な性格/集団就職/出会いと別れ/研究と工夫/イギリス滞在/粉ひき風車とブルネルの技術史/自由と孤独/新機軸への興味追求/自己解決と努力/風車と近未来社会/学会と部外交友/大学と社会/海外と日本比較/メディアとアートとデザイン/過現未と夢

連載・イベント

▼個人の舞台とシナリオ

今年、アメリカには新しい政権が誕生した。バイデン民主党政権であり、それより前、日本には菅政権が

誕生した。世界は、コロナ禍中でありwithコロナであり、postコロナ(afterコロナ)がみえない。またbeyondコロナなども呼び、コロナ感染症を早く乗り越えたい。ある人物のある舞臺での演技を、書き残してみたい。それは、ある個人の、ある生き様、舞臺の一角かも知れない。それが蓄積し、履歴書となる。

読みこたえがある。そんな挑戦をこのコラムでは行いたい。一辺倒ではない。破天荒がなおさらいいかもしれない。このコラムでは、その舞臺とシナリオ、そして演者について書き留めたい。ある人物のある舞臺での演技を、書き残してみたい。それは、ある個人の、ある生き様、舞臺の一角かも知れない。それが蓄積し、履歴書となる。

以上の自己記述をから建吉の人生の旅路の章立てを、キーワード風に見ると以下のようになりそう。田舎の出自/自閉的な性格/集団就職/出会いと別れ/研究と工夫/イギリス滞在/粉ひき風車とブルネルの技術史/自由と孤独/新機軸への興味追求/自己解決と努力/風車と近未来社会/学会と部外交友/大学と社会/海外と日本比較/メディアとアートとデザイン/過現未と夢

以上の自己記述をから建吉の人生の旅路の章立てを、キーワード風に見ると以下のようになりそう。田舎の出自/自閉的な性格/集団就職/出会いと別れ/研究と工夫/イギリス滞在/粉ひき風車とブルネルの技術史/自由と孤独/新機軸への興味追求/自己解決と努力/風車と近未来社会/学会と部外交友/大学と社会/海外と日本比較/メディアとアートとデザイン/過現未と夢